

平成 28 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録

開催日	平成28年10月27日(木)	時間	13時45分 ～14時15分	場所	市立伊丹病院 くすのき講堂
出席者	<p>委員： 常岡委員長(伊丹市医師会会長)、末岡委員(宝塚市医師会会長)、木村委員(三田市医師会会長)、黒田委員(尼崎市医師会会長)、森田委員代理として飯田委員(伊丹市歯科医師会副会長)、千葉委員(伊丹市薬剤師会会長)、清水委員(兵庫県伊丹健康福祉事務所長)、柳田委員代理として福井委員(伊丹市消防局次長)、坂本委員代理として藤本委員(伊丹市健康福祉部保健医療推進室長)、西本委員(三田市健康福祉部長)、岡野委員(学識経験者)、中田委員(伊丹市病院事業管理者)、平塚委員(市立伊丹病院院長)、関委員(市立伊丹病院副院長)、大迫委員(市立伊丹病院看護部長)、米倉委員代理として田中委員(市立伊丹病院事務局次長)</p> <p>委任状： 藤末委員(川西市医師会会長)、酒井委員(宝塚市健康福祉部長)、根津委員(川西市健康福祉部長)</p> <p>オブザーバー： 山本(市立伊丹病院副院長)、筒井(市立伊丹病院副院長)、三木(診療部長)、萩原(放射線科主任部長)、太田(歯科口腔外科主任部長)、清田(医療技術部放射線担当技師長)、五十嵐(薬剤科長)</p>				
議題 内容	<p>■ 開会のごあいさつ</p> <p>国は地域包括ケアシステムに力を入れており、伊丹市医師会でも頑張っており、市立伊丹病院においても地域医療支援病院としてその要を担っていただきたい。本日は平成28年度第2回地域医療支援委員会開催のために、関連の方々にお集まりいただき、ますますの地域医療連携の発展に忌憚ないご意見を頂戴したいと思っている。</p> <p>■ 委員紹介</p> <p>席次順に紹介 出席者過半数を超えているので本会は成立することを報告。 本委員会は「公開等および傍聴についての要綱」第2条ならびに第3条による公開となっておりご案内したが傍聴希望者は無。 ・本委員会は議事録作成のため録音している。 ・会議録の記載内容回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開催の日時および場所 2.出席した委員、臨時委員、専門医委員および関係人の氏名 3.議題およびその内容 4.議題の要旨 5.議決事項 6.その他委員長が必要と認める事項 <p>討議の中での発言内容、発言者の氏名は記載無し。 第18条により 会議録は市立伊丹病院ホームページにて公開。</p> <p>■ 議事署名人の指名について(2名)</p> <p>・常岡委員長より指名 飯田委員、福井委員に依頼したい。 両者共に了承。</p>				

■ 議事

1) 紹介患者に対する医療提供について

資料 1-① 1-② 1-③ 1-④ 1-⑤に従って説明

資料 1-① 紹介率 71.9%、逆紹介率 96.0%にて承認要件のイおよびウを満たしている。

資料 1-② 診察、入院目的、MRI、CT 増加、マンモグラフィは減少したがクーポン券の配布が
少なかったことが考えられる。

クーポンはどのように配布されているのか？

→伊丹市で無料クーポン配布しており、実施した当初は 40、45、50 才と節目の年に配布
されていたが、制度の見直しで 40 才のみの配布となり受検者が減少したと思われる。

資料 1-③ 紹介入院は前年度比で減少しているが、救急搬送数、入院患者数は増加している。

資料 1-④、1-⑤によると宝塚市からの紹介が 1200 件以上あるが、そのうち呼吸器内科や産婦
人科の紹介はどのくらいか。

→具体的な数値は即答できないが、印象としては増加傾向にあると思われる。どの診療科
もスムーズな病診連携、病病連携ができています。

2) 救急医療の提供について

資料 2 に従って説明

サービス付き高齢者向け住宅や施設、在宅の患者の看取り対応ができずに死亡診断のためだ
けに救急搬送されるといったケースを減らそうとしているが、伊丹病院での状況はどうか。

→ 当院では最近減少している。というのも市内の施設担当者と年に 2~3 回会合を持ち看
取りについて話し合いをしている。施設の方も看取りについて考えてくれるようになった。

二次救急システム(むこねつ)内科系は減少し、整形外科系は増加している。これは病院の特
徴か。

→内科系については、循環器内科はスタッフが 4 名のみであり、人員不足のため夜間につ
いては東宝塚さとう病院に依頼している。ちなみに脳神経外科は 1 名であるが非常に頑張
ってくれている。

3) 地域の医療従事者に対する研修について

資料 3 に従って説明

先ほどご説明した施設担当者との話し合いの会が、この No.7 の「伊丹介護保険病院連携会研
修会」である。特別養護老人ホーム、老人保健施設、サービス付高齢者住宅、訪問診療医で看
取り可能とする施設において、患者、家族、医療者が納得いく形でどのようにしたらよいかという
研修を行っている。お互いの理解が深まっているので、死亡診断のための受診は減少してきて
いる印象がある。

4) 開放病床の運用実績について

資料 4 に従って説明

開放病床を利用される診療科と内容は。

→眼科が一番多く、次に外科である。内容は白内障の手術のための共同診療が一番多い。
手術であれば手術の器具など使い勝手は大丈夫か。

→当院出身の医師が多いため当院の器具に関しては慣れているので問題ない。

5) その他

振り返ると10年ほど前は救急の受け入れが悪い時代もあったが、現状は市立伊丹病院の救急受け入れ件数が増加している。地域医療支援病院としてのこれからの対応や連携についての考えについて。

→むこねっとの活用 切れ目のない地域医療連携によるケア、救急に力をいれていきたい。阪神北圏域は高度急性期病院が少ない。これは当院だけでは解決できないことであるため、これをどうするかを各先生方と検討していきたい。

■ 閉会のごあいさつ

本日はご多忙の中、地域医療支援委員会に出席いただきまして誠にありがとうございます。平成23年11月に地域医療支援病院に承認していただき5年が経過しました。おかげさまで紹介率は3年連続で65%を超える見込みです。初診以外の患者も含めた紹介患者総数は9月までの12ヶ月で18262人、それ以前の12ヶ月は16342人であり、1年で12%も増加しました。そのうち伊丹市内の患者割合は68%で、3分の1が市外からのご紹介です。

救急医療につきましては、今年2月に2階東病棟にあるICUと同じ2階東病棟にオーバーナイトベットを8床オープンしました。オーバーナイトベットは夜間救急受け入れ専用のベッドで、翌日に一般病棟に移動します。これにより、救急患者への対応を強化でき、満床による受け入れ困難例が三分の一に減少しました。なお、生命の危機に瀕する重症患者は従来通りICUに入室します。

当院の初期研修医は平成16年の制度スタートからずっと定員6名が割り当てられていましたが、今年度は7名になり、来年度は定員が10名となります。政令指定都市以外の市民病院で定員10名以上の病院は極めて少なく、大阪府では市立豊中病院が10名、兵庫県では2つの市民病院が合併した北播磨総合医療センターが10名、今年合併によりできた加古川中央市民病院が11名です。マッチング結果は例年この委員会の開催時間に内に発表されることが多かったのですが、今年は先週木曜日に発表があり、無事10名がマッチングしました。初期研修終了後に後期研修医として残ってもらうことが病院の活性化に重要であり、若手医師の育成に引き続き力を入れて参りたいと考えています。

今後ともご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

本日はご出席いただきまして誠にありがとうございました。

■ 謝辞

紹介患者数が増えてるということでうれしく思います。救急医療につきましては、当院に救急医療の専門医がおりませんので、無理はせずにやっというようにしております。初期研修医の受け入れ、10名となりますので地域医療の教育を先生方よろしくお願ひしたいと思ひます。この10月から、2階東病棟を夜間の救急患者用として8床開きましたので、病床数が増加し夜間の患者受け入れに余裕が少しできました。今まで以上に、整形外科の外傷受け入れも可能となりました。ただし夜間の受け入れは難しく、昼間のみ対応させていただきます。腰痛などの安静目的での入院は難しく手術目的となりますが、何かお困りの際には一声かけていただくのは構いませんので、お声をかけていただければと考えております。癌には力を入れていきたいと思ひているのですが、なかなか集まらず、毎年50例くらいしか増えないので、癌につきましてもご紹介いただければと思ひております。兵庫県の地域医療構想委員会においては、急性期病床をどうするか、なかなか良い答えが見つかりませんので、病院としては様子を見ながらやっていきたいと思ひております。

今までより、もう少し上を目指してやっていきたいと思ひますので皆様よろしくお願ひいたします。

別紙のとおり「平成 28 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として作成する。

作成者 平成 28 年 11 月 22 日

常岡豊



印

別紙のとおり「平成 28 年度第 2 回市立伊丹病院地域医療支援委員会議事録」として確認する。

議事録署名人 平成 28 年 11 月 24 日

福井浩次



印

議事録署名人 平成 28 年 11 月 24 日

飯田良治



印